

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：34421

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520725

研究課題名（和文） 魏晋南北朝における地域意識と地域文化に関する総合的研究

研究課題名（英文） A synthetic study of region consciousness and regional culture in Wei, Jin, Southern and Northern dynasties period

研究代表者

中村 圭爾（NAKAMURA KEIJI）

相愛大学・人文学部・教授

研究者番号：00047383

研究成果の概要（和文）：魏晋南北朝時代に各地で編纂された地方志は、隋書経籍志以後の正史等の目録に収録されている書籍以外にも多数存在していたこと、及びそれら多数の地方志の編纂状況は地域によって偏りがあることを実証した。また、墓から出土する副葬品のうち、鎮墓獣と呼ばれるものは、地域によってその形態に地域的特色があり、その地域的特色を共有する地域がいくつか存在することを明確にした。この二つの事実をもとに、当時の地域区分を仮説的に推定した。

研究成果の概要（英文）：A number of local history books were regionally compiled in Wei, Jin, Southern and Northern dynasties period along with books recorded in catalogues such as an authentic history after Suishu-jingjizhi. This treatise clarifies that many of those local history books were compiled differently in each region.

Also among the grave goods excavated from the tomb, called as Zhenmu-shou has a characteristic shape by region, and it made clear that there are some regions which have a feature in common.

Based on these two facts, I hypothetically estimate the area classification of those days.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：中国古代・中世史

1. 研究開始当初の背景

（1）中国史研究に地域研究的視点や地域的要素を導入する視角・方法が重視される傾向の中、その地域を構成する要素や具体像について明確にする研究が魏晋南北朝時代に関して不十分であった。

（2）研究代表者と分担者は、それ以前から地域の意識や地域の文化について問題意識を共有し、それぞれ異なった視角と方法から、地域の具体的あり方について研究を公表し、さらにそれを総合的な研究として発展させることを期していた。

2. 研究の目的

(1) 文献史料と考古学的資料の総合的分析から、魏晋南北朝時代における地域意識と地域文化の生成と発展を検証すること。これは魏晋南北朝史認識に関する分析視角に新しい要素を加えることになると予期していた。

(2) 地域意識と地域文化の具体的な現れ方を基準として、魏晋南北朝時代における具体的な地域区分(ここでいう地域区分とは、自然地理的区分や行政区画ではなく、意識と文化を共有する区域のことである)を明確化すること。これは中国史認識にこれまでにない視点を提供することを目していた。

3. 研究の方法

(1) 地域意識と地域文化を表現する素材として、文献史料では地方志、考古学的資料では出土品、特に明器類を利用することとし、その総合的整理を行う。

①地方志については、『隋書』経籍志地理書類の著録地方志を基準に、地方志佚文の収集と整理・分析を行う。

②考古学的資料については、調査報告類の内容を網羅し、発掘報告目録と出土品一覧を作成する。

③上記作業の補完として、現地調査を行う。

(2) 文献史料と考古学的資料を総合し、地域意識と地域文化の共有を基準に新たな地域区分を設定する。

①地方志の分布と記事内容から地域意識を把握するとともに、明器類、特に鎮墓獸と呼ばれる特異な明器の形態差等から、文化の地域差を具体的に確認する。

②上記両者の総合的分析から、魏晋南北朝時代における新たな地域区分を提示する。

4. 研究成果

(1) 地方志佚文の著録対照と収集

地域意識を検出する手がかりとして、魏晋南北朝隋唐時代に大量に編纂された地方志(ここでは正史の書籍分類上、地理の記事を中心とする地方志と範疇が異なる雑伝なる書を含む)を活用することとし、その全体像の把握を研究の出発点の一つとした。その基礎作業として、隋書、新旧唐書などの経籍志・芸文志に著録された地方志と、王謨・劉緯毅の佚文収集、張国淦の著作などを対照する一覧表を作成した。その表から、著録があり、佚文収集がまだなされていない地方志を選別して、その佚文収集を試みたが、従前に著録されている地方志以外に、当初の認識を上回る大量の地方志佚文が存在することが確認され、十分な佚文集を完成することができなかった。

未著録の地方志には、いわゆる地方志以外

の体例の書も少なくなく、以下にその一部を例示しておく。

隋代の図経集成である隋図経雑記

国都の記録である国都城記

有名人の墓の記事である城冢記

山岳記事である開山図・華山記

宮殿記事である洛陽宮殿墓・雲陽宮記

これら諸書の分析は今後の課題である。

(2) 地方志の性格について

また、地方志対照作業の中で、当初予期していなかった事実の発見もあった。漢唐間の地方志の大量編纂が、じつは正史における地理に関する記録の在り方と密接に関連しているのではないかという問題であり、正史の地理志・郡国志の類の記事が単なる行政区画の羅列になり、古典にみられた各地の風俗物産、名所旧跡、著名人士等の記事を欠落させることとなり、その結果、正史から欠落した各地の風俗物産等々を各地で記録し、宣揚するために、地方志の編纂が盛行したか、ないしはその逆に地方志盛行により、正史の各地に関する記事が簡略となったかという問題である。これは、地方志の記事の分析と史料批判において考慮されるべき問題であろう。

なお、地方志を含む地理書の内容については、本来地理に関する記事は、王朝の全国統治の要請から出ているもので、単なる全国の地理区分だけでなく、伝統的には山川湖沼、土田、物産、風俗などを含むが、それらが当地貫徹のための不可欠の地域要因であったからである。その際注意しておくべきは、その地域要因にこの時代から著名人士が含まれるようになることであり、それがこの時代の地方志の中に雑伝のごとき書が出現する背景といえる。

(3) 地方志撰述の地域偏差

魏晋南北朝時代における大量の地方志の編纂は、中国各地域で均等になされたのではない。各地域の地域的特色によって、撰述の地域的偏差が認められる。

例えばこの時代に最も長期に国都であった洛陽周辺では、洛陽記と称される書籍が多数撰述されている。伝統的旧都長安に関しては西京記なる書が多く、また長安周辺地域を記した関中記は、書名と異なり長安宮殿関係記事が大半を占める。

国都に関する地方志には、専ら宮殿門楼のみに限定した書も含まれるが、当然のことながら、主なものは洛陽宮殿と建康宮殿に関する書で、この2類と鄴に関する書以外の国都の宮殿記事はほとんどない。

地方志の中には、当地の名所古跡の記事に限定したものがある。前述のような名山に関する書、有名人の墓地に関する書、比較的早い時期の地方志は、2世紀末以来文化的先進

地域であった当時の潁川・陳留・汝南、あるいは会稽・襄陽等の土地での郡単位のものが多いが、次第に辺境地域にも拡大していく。また、漢族の南下と東晋南朝の成立に伴い、例えば呉興や京口といった地域でも撰述されるようになる。

さらに記述範囲が郡単位から当時の上級行政区画の州単位へと移行し、かつ人口南下の影響により、冀・幽・司諸州等華北地域から荆・湘・南徐・南雍諸州等、華中・江南地域の地方志が現れる。

これらは、当初比較的限定された地域に閉ざされていた地域意識が、郡を越えて拡大していくことを示すであろう。

(4) 魏晋南北朝関係の考古学的資料の整理

近年の当該時代に関する考古学的活動は比較的活発で、その結果、文字資料として重要な墓誌の他に、さまざまな副葬品が出土するが、それらは各地の地域的な特徴を備え、他地域との差異がしばしば見られる。

墓誌については、研究計画立案の段階では地域意識や地域文化の面で必ずしも重要視していたのではないが、墓誌出土は、東晋南朝の江南では百点に満たないのが現状であり、洛陽遷都以後の北魏洛陽周辺で大量に出土することが地域文化の一つの現われ方であると判断して、その記載内容等について分析を行った。

その中で得られた重要な知見として、墓誌の記事内容には、その墓誌が作成された時期の政治的状況が反映されているという事実がある。従来墓誌はその墓誌の主が死亡すれば、単純な過程を踏んで手順どおりに作成されるというのが一般的理解であったが、事実は必ずしもそうではなく、誌主が所属していた政治的グループの立場の変化や、改葬・死後贈与される官職の追加によって、墓誌内容記事に改変があることを実証した。これにより、墓誌が製作された正確な時期を検証し、厳密な史料批判が墓誌研究にも必要であることを再確認した。

また、副葬品については、継続してリストを作成しており、副葬品（特に家屋その他生活施設模型や人物・動物俑）の豊富な北朝華北墓と副葬品が簡素な東晋南朝江南墓の差異は明確となっている。

(5) 「鎮墓獸」に見る具体的地域性

副葬品中、特に地域文化を象徴するものとして、いわゆる鎮墓獸を当初から分析の一つの中心とした。鎮墓獸とはこの時代の墓中でしばしば発見される怪獸様の副葬品である。

その形態は独角獸のもの、獸面獸身と人面獸身が一对（この場合両者の獸身は多くが同一范型である）のもの2系統がある。

前者は、後漢時代から出現するが、最初は

陝西省に現れ、西晋時代になるにつれて、甘肅省と河南・山西・山東へと広がり、江南の江蘇省では西晋から南朝時代にかけてみられる。このような経過は土俗的な地域文化が特定の地域で発生し、それが次第に他地域に伝播していった痕跡と判断できる。

後者の一对型の鎮墓獸は、蹲踞型と伏臥型がある。蹲踞型の最初例は洛陽遷都前の山西省大同の北魏墓であり、後漢・西晋墓の独角獸型から派生したと推測されてきた。しかし近年公表された関中十六国墓群の報告書を整理したところ、伏臥形の鎮墓獸が蹲踞型に先んじて、関中の十六国時代の墓葬から出土することが判明した。さらにこの伏臥型は、北魏の関中地方のみで維持され、そのまま同地域の西魏・北周時代にまで継承される。北朝華北墓及び東魏・北齐墓では、蹲踞型が主流であるのに対し、このように限定された地域のみで鎮墓獸の特定の特徴が保持されることは、同時代の地域文化の差異の顕現であるとともに、特定の地域では、その地域文化が王朝を跨いで強固に継承されることの証明である。

ただし、この関中十六国墓の伏臥型鎮墓獸と、北魏前期大同の蹲踞型鎮墓獸の影響関係は、現時点の出土例では、両者の地理的な隔たりとその歴史的背景からすれば、直線的に結ぶことは難しく、両者それぞれが、その土地で流行した後漢・西晋時代の独角獸の系譜を継承したと考えるのが妥当である。

なお、関中の伏臥型は、その後隋代に東魏・北齐の蹲踞型に突然移行する。この現象については、十六国・北朝を通じて長期的に保存状態にあった地域文化の消滅事例として、今後更なる検討が必要である。

(6) 魏晋南北朝時代における地域区分の具体像

本研究で提示しようとした地域区分の基準は、地域意識と地域文化の2点である。研究計画の当初は、この2点を基準にした地域区分はかなり共通するのではないかという予測があったが、文献の叙述に現れる意識と埋葬を中心として認識する文化は必ずしも緊密には重複しない。地方志の拡散は先進地域から周辺にかけて実現するが、土俗的文化はむしろ在地性と継続性が強固で、地域間の移動は明確ではない。

魏晋南北朝にあつて、かつての文化先進地域である潁川・陳留・汝南、あるいは会稽・襄陽を中心地とする地域はやはり共通固有の地域として存在したと思われるが、土俗的文化による区分でいえば、長安近辺、河北の太行山東麓、太原・大同、江蘇南部・浙江北部などが、各地の中心地区であり、ここから同心円状に広がる地域が、地域区分の基礎的部分となる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

①室山留美子、試論北魏墓志史料の特性、第 5 回中国中古史青年学者国際研究会論文集、査読有、2011、pp.329-345

②中村圭爾、漢唐間における地理の叙述とその系譜、郵政考古紀要、査読無、50 号、2010、pp. 178-195

③中村圭爾、漢唐地理書書目対照表 (稿)、大阪市立大学東洋史論叢、査読無、17 号、2010、pp. 68-181

④室山留美子、隋開皇年間における官僚の長安・洛陽居住、都市文化研究、査読有、第 12 号、2010、pp. 12-23

⑤室山留美子、北魏墓誌の制作意義、中国史学、査読有、第 20 号、2010、pp. 133-151

⑥室山留美子、北魏漢族官僚及其埋葬地選択、日本中国史研究年刊、査読有、2007 年度版、2009、pp. 73-104

[学会発表] (計 6 件)

①室山留美子、古代中国の地域文化—鎮墓獸を手がかりに—、第 21 回瀬戸内魏晋南北朝史研究会、2012.3.25、大阪教育大学

②室山留美子、古代中国の地域文化—西安北魏墓・十六国墓と後漢六朝期の鎮墓獸を手がかりに—、第 43 回中央アジア学フォーラム、2011.12.3、大阪大学

③室山留美子、試論北魏墓志史料の特性、第 5 回中古史青年学者聯誼会、2011.8.28、北京首都師範大学

④中村圭爾、買地券と墓誌の間、第 3 回中国石刻合同研究会、2010.7.24、明治大学

⑤室山留美子、北魏墓誌研究における新しい可能性にむけて、大阪市立大学・上海師範大学共同セミナー唐宋社会における文化力、2010.6.12、大阪市立大学

⑥中村圭爾、魏晋南北朝の貴族制と地域社会、東方学会第 2 回日中学者中国古代史論壇、2010.5.21、日本教育会館

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

[その他]

ホームページ等

データ集

室山留美子編、出土資料からみた魏晋南北朝の地域文化に関する初歩的研究、2012.2、pp1-66

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 圭爾 (NAKAMURA KEIJI)

相愛大学・人文学部・教授

研究者番号 : 00047383

(2) 研究分担者

室山 留美子 (MUROYAMA RUMIKO)

大阪市立大学・文学研究科・都市文化研究センター研究員

研究者番号 : 20514029

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :